

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|----------------------------------|
| 事業所番号 | 4075300204 |
| 法人名 | 医療法人 社団 親和会 |
| 事業所名 | グループホーム きんもくせい (ユニット名 さくら・ひまわり) |
| 所在地 | 福岡県鞍手郡小竹町大字勝野4202-7 |
| 自己評価作成日 | 平成24年7月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 評価機関名 | 公益社団法人福岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F |
| 訪問調査日 | 平成24年9月7日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の生活ペースを重視し、安心安全で一日をゆったりと過ごすことが出来るようにしている。又、季節ごとの行事を計画して、利用者全員が気分転換が出来て楽しんでいただけるように工夫している。運営推進会議で、利用者の方々の毎日の生活ぶり、行事報告を行い、ホーム行事や地域行事の情報提供が成され、サービスの向上に活かしている。また、外部研修会に参加し、ホーム内の勉強会を開いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは周囲を緑の木々に囲まれた自然豊かな場所に老健施設と隣接して位置している。管理者は病院勤務経験が長く、利用者に対するの尊厳や人権意識が高く、利用者1人ひとりがその人らしくゆったり穏やかな日々が過ごせるようにとの思いが強い。その為、職員の研修参加を積極的にすすめて質の向上に取り組んでいる。また、地域ボランティアの協力でお習字の指導を定期的に受けたり、地域生き生きサロンとの交流等も行われている。自家菜園ではキュウリ、スイカ等を利用者と職員が一緒に育てて日々大きくなるのを楽しみながら収穫したり、草取りを一緒に行う等、その人らしい過ごし方がしっかりと支援されており、今後さらに地域に根差して大きく発展することが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) | <input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 月1回のホームカンファレンスを行い、その都度、職員が声に出して理念を読み上げ、理念の大切さを再確認している。 | 開設当初の理念を数年前に「…地域の人々と交流を図りながらゆっくり、のんびりそっと寄り添っていきます。」と職員、管理者が共に話し合って見直しを行っている。また、カンファレンスの場で確認しあって実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町の行事等に参加している。週1回、又は2週間に1回ボランティアの方に来ていただいて、習字やカルタをしたり、本の読み聞かせや紙芝居をしていただいている。 | ホーム便りを地域住民へ配布して訪問をお願いしたり地域サロンとの交流やホームで開催した夕涼み会へ近隣の方が参加している。また、外出(水族館)時にはボランティアで地域住民の協力を受けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 役場や福祉協議会、いきいきサロン等へ参加して地域の高齢者の役に立てるよう取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用者の状態やサービスの取り組み内容を報告し、意見交換やアドバイスを受け、サービス向上に活かしている。 | 運営推進会議を行政、家族、地域住民等の参加で2カ月毎に開催している。会議中の提案で地域サロンで練習しているハンドベルにホーム職員や利用者の参加を勧められ、クリスマスには地域サロン参加者の慰問を受けてハンドベル演奏が計画されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り合い、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 市町村担当者と連携が取れており、ホーム便りを毎回届けて情報交換を行っている。また、利用者の飲酒問題では市町村担当者を訪ねて問題解決の協力を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 常に勉強をする事で、言葉かけなども含めて、問題になる行為をしないように努めており、身体拘束はしていない。 | 夜間以外、日中は玄関の施錠をしていない。利用者外出時には引き止めることなく一緒に行動している。以前ベットから落ちて骨折したことがある利用者1名について、安全確保のため家族等と話し合いのうえ、一時的な対応として夜間のみサイドレールを使用している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に勉強会を開き、常に介護時の対応に注意して、言葉かけ等にも気をつけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会にて得た資料を活用し、スタッフが勉強し、成年後見制度の手引きを玄関前に閲覧出来るようにしている。 | 現在、成年後見制度の利用者がおり、玄関の見やすい位置にはパンフレットを設置して周知ができる体制を整えている。外部研修に参加した職員が内部での伝達研修を実施して成年後見制度について学ぶ機会を持ち活用できるようにしている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書に記載した内容を契約時に説明し、解からない点などは再度説明して、理解・納得した上で契約の同意を得ている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情箱を設置したり、家族へこちらから働きかけ、意見等が発言されやすいような雰囲気作りをしている。 | 毎日、毎週、月1回と家族によって訪問頻度は違っているが、訪問の機会に状況報告や外出行事予定等を詳細に伝えて家族からの意見を聴き出すようにしている。また、ホーム便りでも伝えて家族等の意見や要望を運営に反映させている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のホームカンファレンスを行い、職員から意見や提案、問題点などを聞く機会を設けている。 | 職員の異動や新規採用、利用者の退去や入居等についてはその都度、職員へ報告や相談が行われている。また、職員からの意見や提案についても管理者は気軽に相談に応じている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 研修会・ホーム内での勉強会を開催し、職員が各自向上心を持って働けるように努力している。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 職員の採用にあたっては、年齢・性別の制限はなく、人柄や意欲を重視している。事業所で働く職員に対しては、交代で昼休みをとったり、月2回の希望休の配慮をして、生き生きと働ける環境を整えている。 | 25歳から63歳までの男性、女性職員が勤務している。公休も職員の希望に応じており、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮がなされている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 理念に”入居者に対して人権を尊重する”ように入れており、勉強会で人権に対する意識を共有し、利用者の尊厳を守り、穏やかに楽しい暮らしが出来るように支援をしている。 | 認知症介護研修や人権問題に関する外部研修に職員が参加しており、更に内部にて伝達研修を行い、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 段階に応じて外部の研修へ参加し、その都度伝達講習を行っている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 小竹町のグループホームの集いに参加して意見交換し、福岡県グループホーム協議会の研修に参加したりしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時に困っている事や不安がないか話しを聞く機会を出来るだけ多く持ち、対応出来るように努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時や契約時、家族が困っていること、不安に思っていることなどを管理者を中心に話しを聞く機会をつくり、対応出来るように努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人・家族の話を聞き、今利用しているサービスの担当者やかかりつけの病院などから情報や意見を聞き、どのサービスが良いか見極め対応している。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人が過ごしてきた人生を大切にして、喜怒哀楽を共にし、本人から色々なことを学んだり、力になれるよう努め、安心出来る関係を築いている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 常に連絡を密にして、利用者の細やかな事や気付いたことを伝えたり、家族の不安な事や要望などを伺い、共に支え合う関係をつくっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の希望に沿えるように、外出の機会を設けるなど、馴染みの人や場所との関係が続けられ、又、関係が途切れず安心出来るように支援している。 | 自宅の愛犬に会いたいという利用者の願いをかなえるため帰宅支援をしている。また、御仏壇掃除(独居の利用者)に職員と一緒に出かけることもあり、これまでの関係継続の支援に努めている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が楽しく安心して施設で生活出来るように、共通の趣味や話しが楽しく出来るように努めている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 疾病により入院されると面会に行き、状態把握を行い、利用者家族との付き合いを大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 今までの暮らし方などの情報を集め、利用者の希望に沿った生活が出来るように努めている。 | 日々の生活を一緒に行う中で、一人ひとりの表情やしぐさ、会話等から希望や意向の把握に努めている。意思疎通困難な利用者の場合は、過去の生活歴や特技等の情報を家族から得るようにして本人本位に検討している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人・家族より情報を収集して、センター方式を活用し、サービス経過に努めている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の過ごし方をセンター方式の記入シートに書き込めるように本人や家族にお聞きし、日頃の生活状況を見て、確認しながら情報を収集し、本人の状態が総合的に把握出来るように努めている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当職員を中心に、利用者や家族の意向、職員の気付き・意見を収集し話し合いを行い、介護計画を作成している。定期的な見直しや、状態の変化時には家族と相談し、その都度介護計画を作成している。 | モニタリングは1ヶ月に1回行い、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。3ヶ月に1回担当職員が中心となり利用者、家族、職員の意思を収集し介護計画書の作成、見直しを行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子やプランに沿った内容を個別記録用紙に記入し、情報が共有出来るように活用し、実践や介護計画に活かしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・家族の要望に応じ、介護保険の更新手続きや病院受診などの支援を行っている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 本人の意向や必要に応じて、ボランティアの協力にて習字をしたり、読み聞かせや紙芝居の訪問を取り入れている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の希望に沿えるように、医療機関の確認を行い対応している。場合により、協力医療機関への受診や月2回の往診による支援を行っている。 | 利用者、家族の希望で協力病院以外への受診者もいる。協力病院からは毎月2回往診を受けている。家族が受診支援困難な場合や緊急時等は、家族の希望を確認して職員が同行しており、受診結果に関する情報を共有している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 状態や変化をすぐに看護師に報告し、協力病院の看護師と相談しながら支援している。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者との情報交換や相談に努め、対応している。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期について、利用者・家族の希望を聴き、事業所としての方針を説明・共有しながら、出来る限り長い時間をホームで暮らすことが出来るように支援している。 | 利用開始時に終末期のあり方について利用者、家族と話し合っって書面にて方針を共有している。重度化した時点でも、医師や家族等関係者間で話し合い、希望する病院へ入院する等の支援体制を整えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生時の対応に備えて、マニュアルを作成して勉強会をしている。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防火訓練を年2回行っている。今後は自主訓練を行う予定。又、地域の方への災害時緊急連絡の協力を得るように体制作りをしていく。 | 年に2回夜間と日中を想定した避難訓練を実施しており、協力してもらえる地域住民や家族との緊急連絡網を作成している。また、災害に備えて飲料水、食糧等も備蓄している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉掛けや対応には常に気をつけ、記録等の個人情報の取扱いは問題が起きないようにマニュアルに沿って対応している。 | 利用者への言葉かけや対応は、プライバシーを損ねないように一人ひとりを尊重した会話が職員との間で交わされている。記録等の個人情報は事務所内の書棚に保管されており、慎重に取り扱われている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の訴えに優しく耳を傾け、話を聞くことを心掛け、自分で決め、納得できるように支援している。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人の生活ペースに合わせ、希望に沿う事が出来るように支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洋服を自分で選んで着用して貰っている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の好みを把握し、温かい出来立てを美味しく食べて頂いている。下膳は職員と一緒に協力して行っている。 | 自家菜園で、キュウリやスイカ等季節の野菜を利用者と一緒に収穫し日々の食事に採り入れている。利用者と職員が同じ食事を楽しく摂り、食事前後の準備や片付けも一緒に行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食材は業者の者を使用し、カロリー計算して栄養バランスにも配慮している。水分は3色の食事時と、10時、15時に好みのもの、入浴後にスポーツ飲料、夜間は麦茶を用意し、水分量に気をつけている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後必ず、利用者一人一人に合った歯磨きをしてもらっている。義歯の洗浄は声かけをしたり介助したりしている。義歯は1日1回ポリドントにつけて清潔を保っている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄習慣を把握して、出来る限り、トイレで排泄出来るように支援している。 | 夜間はオムツを使用して排泄支援をする利用者もいるが、日中は一人ひとりの排泄パターンを把握して、トレーニングパンツ等の活用により、できるだけ自立に向けた排泄支援をしている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日頃より便秘の予防に努め、水分補給を行うことや、飲食物の工夫をしたり身体を動かすように散歩を行い、必要時には腹部マッサージも行っている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 本人の希望に沿える入浴が出来るように支援している。 | 基本的には2日に1回入浴を行っているが、希望があれば午前や午後、毎日の入浴も可能である。また、入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等で入浴を楽しめる工夫をしている。何日も入浴を拒む利用者には、対応を工夫してタイミングを見計らい、入浴の支援をしている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の希望や体調に合わせて、自由に昼寝が出来るようにしたり、夜、眠れない利用者には主治医と相談して内服で対応したりして、工夫している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の内容と作用・副作用について薬局からの注意書をスタッフがいつでも確認出来る場所に置いてあり、重要性を把握して、服薬時の注意を確実にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の楽しみ事、したい事を把握して、個別に気晴らしなどが出来るように対応している。 | | |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人一人の希望に沿って買物やドライブ等が出来るようにしている。 | 花火大会や螢鑑賞、お花見や水族館等の計画を立てており、家族や地域のボランティアの協力を得て出かけている。買い物等には外出を希望する利用者数名とその都度出かけている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一人一人の希望や力に応じて、お金を所持して使えるように家族と共に協力して支援している。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 施設内の公衆電話が利用出来るように手助けしたり、年賀状や手紙のやり取りが出来るように、本人の希望に沿えるように支援している。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関や廊下に季節の花を飾ったり、行事の写真や壁に貼ったり、リビングの壁に張り紙をして季節感を造り、居心地良く過ごせるように工夫している。 | 共用空間は天井が高く明るく開放的である。居間にはゆったりと過ごせるようソファもあり、懐かしい振り子時計が時を刻んでいる。また、職員と利用者が一緒に取り組んだ季節毎の貼り絵が掲示してあり居心地良く過ごせるような工夫をしている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファや畳を置き、利用者がテレビを観たり、会話して過ごせたり、廊下の椅子に一人で静かに過ごせるように工夫している。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所前に使っていた家具や使い慣れたものを持ち込めるように配慮して、居心地良く過ごせるように工夫している。 | 使い慣れた椅子やタンス、テレビ、仏壇等を持ち込んでいたり、手作りカレンダーや家族写真を飾ったりして、その人らしい雰囲気作りをしている。一人ひとりが居心地良く過ごせるような工夫がなされている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下全体に手すりを取り付け、安全に移動出来るように工夫している。 | | |